

令和6年度「ひびきあい活動」実施報告書

| | |
|------------|---|
| 学校名 | 飛騨市立 古川小学校 |
| 学校が培いたい行動力 | 人との関わり合いの中で、自分や周りの人のよさやちがいを自覚し、自分や仲間を大切にしていこうとする力 |
| 今年度の重点 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分や仲間、学級、学校の良さを自覚したり、認めたりできるよう、授業づくりや異学年や地域との交流により、自己理解、他者理解の認識を高めた。 ・自分や仲間を大切に、誰とでも関わり合えるように、「古川小学校なかよし宣言」を見つめなおし、人権意識の醸成を図った。 |
| 実施概要 | <p>1 学級・学年・全校・地域による取組</p> <p>【内容1】 各学級で良いこと見つけの時間を位置付け、自分から見つけた仲間の良さを伝え合った。良さを自覚できるよう、「～なところが〇〇さんの良いところ」とより具体的に伝えたり（高学年）、良いところを指す言葉を示したり（低学年）し、ペアや小グループを用いるなど、学年の発達段階に応じて、伝え方を工夫した。また、良さを伝えてもらった児童も、「お返しの反応」（ありがとう、〇〇と思ったよなど）をするようにし、自他の大切さを実感できるようにした。</p> <p>【内容2】 各委員会が、あいさつ、掃除、運動など、それぞれの視点で見つけた全校児童の良い姿や広めたい姿を、写真や動画を用いながら、お昼の放送等で紹介した。</p> <p>【内容3】 生徒指導主事が中心となり、定期的に児童アンケートを行い、児童の実態をとらえることに努めた。「自分には良いところがあるか。仲間の良さを見つけているか。」などの質問も取り入れ、日々の授業や教育相談などでの意図的な指導につなげた。</p> <p>【内容4】 地域講師とともに学ぶ、総合的な学習・生活科の学習・クラブ活動、中高生とともに進めるMSJリーダーズのあいさつ運動など、さまざまな人と関わり合いながら活動した。</p> <p>2 児童運営委員会による取組</p> <p>【内容1】 児童会が掲げる「古川小学校なかよし宣言」を、毎日朝の会で唱和し、仲間を大切にしようとする意識を高めた。11月には、“「古川小学校なかよし宣言」は守れているか”と、自分自身の姿を見つめなおし、さらに意識を高めていこうと、全校体制で取組を進めた。</p> <p>【内容2】 自分の好きなことや得意なことを披露する「古小ライブ」を企画・運営し、さまざまな学年の児童が、自分のよさや持ち味を全校に発信した。ライブを見るために、たくさんの児童が集まり、楽しみながら仲間の発表を観覧した。</p> <p>【内容3】 「にこにこBOX」を設置し、仲間にしてもらって嬉しかったことやがんばっていた仲間の姿などを、いつでも誰でも書けるようにした。それらをお昼の放送で紹介したり掲示したりして良さを価値付け、さまざまな視点から自分や仲間の良さをとらえられるようにした。</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>3 教科における取組</p> <p>【内容1】 国語科，生活科などの授業において，「〇年生をおもちゃランドに招待しよう」「〇年生に読み聞かせをしよう」など，学習の出口を異学年との交流につなげ，目的意識，相手意識を高められるよう，授業の工夫をした。</p> <p>【内容2】 各授業の終末において，本時学んだことや，自らの学び方を振り返る時間を位置付けた。各学年の実態に応じてロイロノートや振り返りシートなどを活用し，自己を見つめたり，仲間の良さに目を向けたりすることで，自己理解，他者理解を図った。</p> <p>【内容3】 道徳科の内容項目「A 主として自分自身に関すること」の「個性の伸長」の授業では，自分自身の特徴に気付き，長所を伸ばすことができるよう，終末に互いの良さを伝え合ったり，自分の良さを自覚したりする活動を取り入れた。また，自分の良さを実感したり，新たな良さに気付いたりできるよう，「わたしの四面鏡ワークシート」を活用し，自分や仲間から見た自分の特徴について交流する時間を位置付けた。</p> |
| <p>成果及び課題</p> | <p>○「自分には良いところがあるか。仲間の良さを見つけているか。」と継続的にアンケートを行ったことで，以下のような児童の変容が見られた。</p> <p>「自分には良いところがあるか」 6月・・・61% ⇒11月・・・68%</p> <p>「仲間の良さを見つけているか」 6月・・・80% ⇒11月・・・84%</p> <p>また，「誰にでもあいさつができる」「友達の良いところを見つけている」など，仲間との関わりを通して自覚できた自分の良いところの記述が増えた。</p> <p>○「古小ライブ」「異学年との交流活動」により，自分や仲間の良さに気付くきっかけを生み出すことができ，自他を大切にしようとする関わり合いが見られた。</p> <p>○「古川小学校なかよし宣言」を見つめなおしたことで，自分自身や仲間，学級，全校の良さをのぼしたり，課題点をさらに良くしていこうとしたりする意識を高めることができた。</p> <p>▲「自分には良いところがある」と実感できている児童の割合は増えたものの，自分の良いところの自覚には，学年間に差が見られる。アンケートや日々の観察から，児童の実態や変容を把握し，授業や行事等の重点的な指導や意図的な価値付けにつなげられるとよい。</p> <p>▲保護者からは，「子どもの良いところをあまり見つけていない」との声もある。学校で行っている児童の価値付けを，家庭でも広げられるとよい。PTAと連携し，自己肯定感，自己有用感を高められるような取組を推進したい。</p> |